

広報なりたで振り返る

# あの日、あの時

## 第2回 成田空港が開港

市のさまざまな情報を発信している広報なりた。当時の出来事や取り組みが記された紙面からはその時代のまちの空気が伝わってきます。ここでは、これまでに発行された広報なりたを通して、まちの歩みを振り返ります。



**日本の新しい空の玄関 “成田空港”が開港**

○成田空港（新東京国際空港）は、5月20日に開港され、日本の新しい空の玄関としてスタートしました。21日午前8時すぎ、ロサンゼルスからの一番機（日航貨物便）が、さらに正午すぎには初の旅客便が到着。翌22日には、旅客の出発一番機として日航947便が離陸したのを初め、あわせて100便が成田空港を離発着しました。23日からは国際線全便（中華航空を除く）147便が運航されています。そして、ここ成田空港のターミナルロビーは、色とりどりのバックやスーツケースを持った各国の乗降客が行き交い、文字どおり世界の門戸に変わりました。

- ①国内外の旅行者でにぎわうロビー
- ②数多くの小中学生が見学に訪れる
- ③旅行者を乗せた飛行機が到着

48年前の昭和53年5月20日、成田空港が開港しました。日本を代表する国際空港の誕生は、国内外から大きな注目を集め、まちは新たな時代の幕開けを迎えました。

同年6月1日号の表紙を飾ったのは、到着ゲートから姿を現す人々の様子。海外からの乗客を迎える空港の一瞬を切り取っています。紙面では、開港初日に到着した第一便についても紹介。開港直後の空気感を伝えています。

季節は変わり、同年11月1日号では、開港から5カ月が

経過した空港の様子が紹介されています。今回はその中から、成田空港に到着した飛行機の姿と利用客でにぎわうロビー、見学に訪れる人々の様子を取り上げました。成田空港が日常の一部として定着し始めた当時の様子がうかがえます。

「田園のまち」「信仰のまち」として発展してきた成田。成田空港の開港は、国際色豊かなまちへと歩みを進めた瞬間でした。

令和8年5月15日号 No.1555



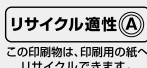
成田市のホームページ  
<https://www.city.narita.chiba.jp>

\*QRコードは株式会社デンソーウェブの登録商標です

\*本紙は5月1日時点の情報を掲載しています。最新情報は各ページの問い合わせ先や市ホームページで確認してください。

### 編集後記

本号の表紙は、成田太鼓祭「千年夜舞台」<sup>せんねんよぶたい</sup>での一コマ。音響などの機材が写り込まないように、立ち位置に気を配る撮影でした。少し動いては写真を確認し、また動いては確かめる。時には機材と機材のわずかな隙間からベストショットを狙うことも。舞台の熱気をそのまま届けたい一心で追いかけた一枚が表紙に採用された時の喜びはひとしおでした。舞台の迫力と、裏側の小さな奮闘を感じてもらえたらうれしいです。



広報なりたは、グリーン購入法に基づく基本方針の判断基準を満たす用紙、誰にでも読みやすいUD(ユニバーサルデザイン)フォントを使用しています。